

ウンカ情報第2号

平成22年8月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 セジロウンカの発生状況

JPP-NETのウンカ類飛来予測システムによると、本年は本県へのウンカ類の飛来に適した気象条件が梅雨明けまでに11回出現しました。これまでの断続的な飛来により、ほ場での発生量が多くなり、7月下旬の本田調査(県内 106ほ場)では、県下全域の74ほ場で成虫や幼虫が捕獲されています。特に捕虫網による20回振り調査では最近10年のデータと比較して捕獲数が最も多くなっています(表1)。今後の気象状況によっては、さらに発生量が増加するおそれがありますので、ほ場での今後の発生動向に十分注意してください。

表1 セジロウンカの本田調査結果(平成22年7月下旬調査 106ほ場平均 単位:頭)

調査方法	成虫	幼虫	計
粘着板による10株の払い落とし	1.22(1.01)	5.50(3.57)	6.72(4.56)
捕虫網による20回振り	6.35(1.38)	12.43(1.75)	18.78(3.13)

注) ()内数値は平年値(平成12~21年の平均)

2 トビイロウンカの発生状況

県内の予察灯で成虫は誘殺されておらず、本田調査でも未確認です。しかし、他県では5月4日に広島県で飛来が確認されており、以降、九州、四国地方を中心に散発的に飛来が確認されています。また、宮崎県では7月26日に本種の注意報を発表しています。例年、西日本を中心に被害がでていきますので、本県でも注意が必要です。

3 ヒメトビウンカの発生状況

7月下旬現在、豊田市、吉良町、西尾市、岡崎市など西三河地方を中心にかなり発生量が多く、特に捕虫網による20回振り調査では、成幼虫合計で57頭と平年の15倍以上の捕獲数となっています(表2)。通常夏季に多発生することはまれですが、長期持続型の箱施薬剤を施用していないほ場では、今後の発生動向に十分注意してください。

表2 ヒメトビウンカの本田調査結果(平成22年7月下旬調査 106ほ場平均 単位:頭)

調査方法	成虫	幼虫	計
粘着板による10株の払い落とし	0.28(0.42)	1.86(1.28)	2.14(1.63)
捕虫網による20回振り	3.68(1.85)	53.06(2.04)	56.74(3.60)

注) ()内数値は平年値(平成12~21年の平均)